

## 図表のチェックリスト（著者用）

図表の統一性が雑誌の品位を高めることに留意し、次の様な点が適切か否かをチェックして下さい。

### A. 図 Figure 及び図説明文 Figure Legend について

図は XY 軸の数字も含めて全てそのまま製版となりますので、全体のレイアウトを考慮して下さい。杏林医学会雑誌の本文は二段組です。小さい図、または縦長の図は一段、横幅 8cm 程度に縮小されます。大きな図、または横長の図は横幅 15cm 程度に縮小されません。図の作成に当たっては、縮小後でも線やシンボルが鮮明であり、図中の文字が本文の文字と同じ、または少し小さめになるように注意して作図して下さい。また、棒グラフでの 3D 表示を用いない等、可能な限り単純な図にして下さい。写真の場合、スキャナーで可能な限り高精細度（350dpi 以上）で取り入れて下さい。デジタル写真の場合、300 万～600 万画素程度の解像度で撮影して下さい。杏林医学会雑誌は電子化されましたので、カラーでの作図、カラー写真の掲載も特別な費用を必要としませんが、可能な限り単純化し、不必要なカラー図版は避けて下さい。

（カラー図版を含む論文を紙印刷する場合には別途に相当の費用がかかります。これは著者負担となります。）

- 1) 図は可能な限り単純化されているか。 適  否
- 2) 図のサイズに対し文字のサイズは適切か。 適  否
- 3) 図の線の太さは適切か。 適  否
- 4) 図中のシンボル、記号、矢印の大きさと記し方は適切か。 適  否
- 5) 図中に凡例やタイトル、折れ線グラフの説明などの文字が入っていないか。（これらは図中に入れず説明文中に記す。口頭発表用のパワーポイント図をそのまま提出し、凡例等が入ったままのことがあるので注意する。） 適  否
- 6) 図及び図説明文に和文が入っていないか。 適  否
- 7) 棒グラフで X 軸の区分名が複雑かつ長文になる場合、図中には略号あるいは A、B、C 等の記号で示し、その内容を図説明文中に記す。 適  否

8) グラフの枠等

- ① 原則として枠は左側と下方のみとし、右側と上方には枠線を付けない。  
 適  否
- ② Y軸は左側を原則としそのタイトルは下から上に記す（右側は、上から下へ）  
 適  否
- ③ XY軸のタイトルと単位は正しいか。例：10,000cpm = cpm×10<sup>-4</sup>（cpm×10<sup>4</sup>ではない）  
 適  否
- ④ XY軸共に、内側目盛を原則とする。  
 適  否

9) 統計学的有意差を示す必要がある場合、適切に示されているか。

適  否

10) 写真は鮮明か。

適  否

11) 顕微鏡写真では、図中に長さを示す指標が示されているか。

適  否

12) 図説明文中に次の事項が適切に記されているか。

- ① 図の簡潔なタイトル  適  否
- ② 簡単な実験方法・条件の説明（結果および考察について、すべて本文中に記し説明文中には含めない。）  適  否
- ③ シンボル、記号、矢印等の説明  適  否
- ④ 一つの図が更に A、B 等に区分されている場合、その区分の説明  
 適  否
- ⑤ 結果が mean+SD か SE の区別と試料数(n)の記載。  適  否
- ⑥ 統計的有意差の有無の記載  適  否

## B. 表について

表は植字となります。英文で作成して下さい。全体のレイアウトに留意し、横に長すぎるものなどは好ましくありません。一段のみを使う表の場合、一行は概ねスペースを含め 65 letters で 7-8 words、左右の二段を使う表の場合、一行は概ねスペースを含め 130 letters で 15 words 程です。

プライマー配列を含め塩基配列は文字データですが図として取り扱います。

1) 縦横比など全体のサイズは適切か。

適  否

2) 罫線は原則として横罫線のみとする。

適  否

3) 表の上端と下端に区切りの横線を入れる。

適  否

4) 表の上に表の番号とタイトルを記す。

適  否

5) 実験条件、数値の説明、統計学的有意差の有無、及び略号等は表の下に記す。

適  否